

2024年3月期 決算説明会

株式会社リミックスポイント

©2024 Remixpoint, inc. All rights reserved.

本日は、株式会社リミックスポイント 2024年3月期 決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

株式会社リミックスポイント 代表取締役の高橋由彦です。

2024年3月期 連結累計期間実績

売上高は123億円の減収となったものの、営業利益は前年比35億円の増益。
特別損失として、ゼロメディカル取得に係るのれんの減損損失約6億円を計上

(百万円)

		2023年3月期 累計実績	2024年3月期 累計実績
売上高	エネルギー事業	25,269	18,886
	レジリエンス事業	637	1,219
	メディカル事業	—	278
	その他	6,881	102
	合計	32,789	20,487
営業 損益	エネルギー事業	▲491	2,296
	レジリエンス事業	▲162	131
	メディカル事業	—	▲7
	その他	▲49	24
	セグメント調整額	▲1,146	▲701
	合計	▲1,850	1,743
経常利益		▲1,722	1,758
親会社株主に帰属する当期純利益		3,267	1,070

※「その他」には、自動車事業、金融関連事業、その他の事業が含まれております。
※ 特別損失の計上については、本日開示の「子会社株式の減損処理等による特別損失（個別決算）及びのれんの減損損失（連結決算）の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

早速ですが、2024年3月期につきまして、連結業績から説明させていただきます。

2024年3月期の連結業績につきましては、売上高204億円、営業利益17億4,300万円、親会社株主に帰属する当期純利益10億7,000万円となりました。

売上高につきましては、主に、エネルギー事業における売上高の減少や、金融関連事業及び自動車事業の廃止により、前期に比べ123億円の減収となりましたが、営業利益は、前期が18億5,000万円の損失であったのに対し、今期は17億4,300万円の営業利益となりました。

各セグメントの業績についてご説明いたします。

まず、エネルギー事業につきましては、売上高188億円、セグメント利益22億円となりました。

前期に比べ、世界的に燃料価格が低水準で推移し、それによって電力市場価格が大きく低下したことによって売上高が減少しましたが、複数の電力供給プランの提供によって、需要家の要望にこたえつつ、市場価格の変動リスクを適切にヘッジし、利益を着実に積み上げることができました。

なお、進行期において開始される容量拠出金制度につきまして、当社は、いち早く容量市場を見据えた料金プランへの移行を進めてまいりました。現在、料金プランの切り替えは完了しており、進行期以降につきましては、2024年3月期に比べて利益率が低下するものの、安定的に利益を確保できることが見込まれます。

2024年3月期 連結累計期間実績

売上高は123億円の減収となったものの、営業利益は前年比35億円の増益。
特別損失として、ゼロメディカル取得に係るのれんの減損損失約6億円を計上

(百万円)

		2023年3月期 累計実績	2024年3月期 累計実績
売上高	エネルギー事業	25,269	18,886
	レジリエンス事業	637	1,219
	メディカル事業	—	278
	その他	6,881	102
	合計	32,789	20,487
営業 損益	エネルギー事業	▲491	2,296
	レジリエンス事業	▲162	131
	メディカル事業	—	▲7
	その他	▲49	24
	セグメント調整額	▲1,146	▲701
	合計	▲1,850	1,743
経常利益		▲1,722	1,758
親会社株主に帰属する当期純利益		3,267	1,070

※「その他」には、自動車事業、金融関連事業、その他の事業が含まれております。
※ 特別損失の計上については、本日開示の「子会社株式の減損処理等による特別損失（個別決算）及びのれんの減損損失（連結決算）の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

レジリエンス事業におきましては、売上高12億1,900万円、セグメント利益1億3,100万円と、ともに前年同期を上回る結果となりました。

オリジナル家庭用蓄電システム「remixbattery」の販売代理店の開拓など、販売活動を積極的に推進したことから、蓄電池販売台数が順調に伸長し、増収増益となりました。

レジリエンス事業では、今後、家庭用蓄電池のみならず、小型産業用蓄電池も販路拡大を進め、さらなる収益獲得に努めてまいります。

メディカル事業におきましては、売上高2億7,800万円、セグメント損失700万円となりました。これは、2024年1月から3月のゼロメディカルの業績のほか、ゼロメディカルの株式取得の際に発生したのれんのうち、2024年1月から3月に対応するのれん償却費3,100万円を計上しています。

連結業績予想			
(百万円)			
		2024年3月期	2025年3月期 業績予想
売上高	エネルギー事業	18,886	18,300
	レジリエンス事業	1,219	1,500
	メディカル事業	278	1,200
	その他	102	—
	合計	20,487	21,000
営業 損益	エネルギー事業	2,296	1,120
	レジリエンス事業	131	200
	メディカル事業	▲7	140
	その他	24	—
	セグメント調整額	▲701	▲820
	合計	1,743	640
親会社株主に 帰属する当期純利益		1,070	600

Topics

- 売上高は、21,000百万円を予想。メディカル事業については進行期よりゼロメディカルの年間収益が反映される
- 下記の理由により、営業損益は640百万円と減益を予想
 - 2025年3月期に容量拠出金制度により発生する約1,486百万円の拠出金額を織り込み済。売上原価として計上し、利益押し下げ要因となるが、2026年3月期は小売電気事業者が負担する容量拠出金総額の減少により、セグメント利益の回復が想定される
 - ゼロメディカルにおけるのれん償却費は、2024年3月期ののれんの減損に伴い、2025年3月期は発生しない

※2025年3月期の容量拠出金当社負担額は、2023年12月に電力広域的運営推進機関より発行された「仮請求額通知書」に基づく金額であり、実際の請求額は未定です。

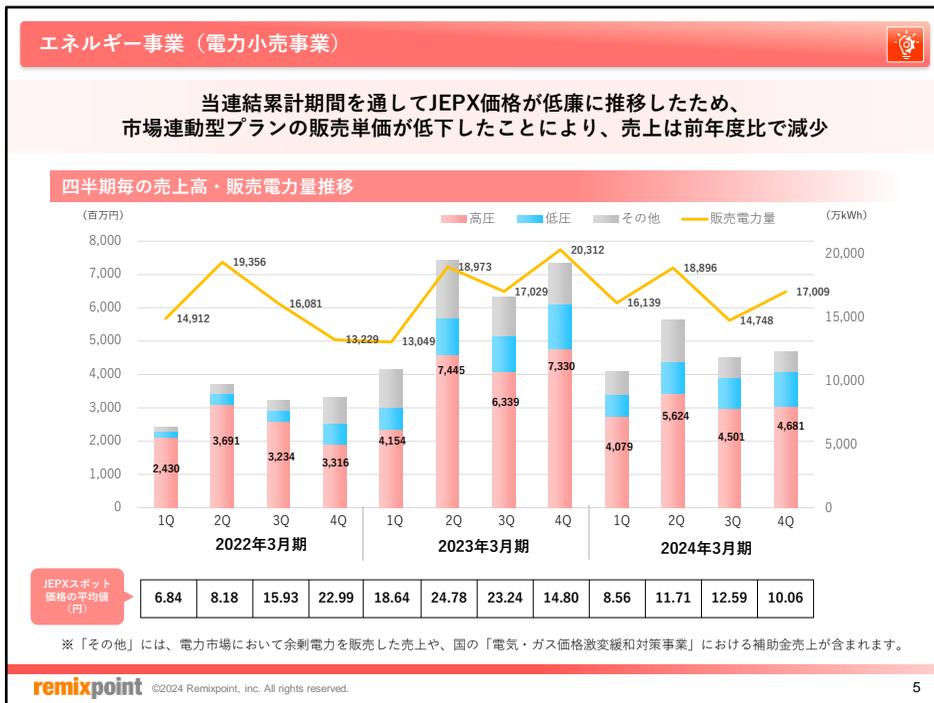
remixpoint ©2024 Remixpoint, inc. All rights reserved.
4

当社は、5月14日付「2024年3月期決算短信」において、2025年3月期の連結業績予想を公表いたしました。

2025年3月期の連結業績予想は、売上高210億円、営業損益6億4,000万円、経常利益6億4,000万円、親会社に帰属する当期利益6億円を見込んでおります。

2024年3月期と比して、減益となる理由は、主に容量拠出金制度により発生する、約14億8,600万円の拠出金額を売上原価に織り込んでいるためです。

なお、来期2026年3月期は、小売電気事業者が負担する拠出金の総額が減少する予定となっており、これによって当社が負担する拠出金額も減少し、セグメント利益も回復する見込みです。



続いて、各事業の主なトピックスについて説明いたします。

まずエネルギー事業です。

こちらは、電力の販売量と高圧・低圧別の売上高推移となります。

当社はこれまで、電力市場の価格変動リスクを抑えるため、市場連動型プランへの移行を推進してまいりました。これにより、市場連動型プランの需要家の割合が増加し、価格変動のリスクは抑えられましたが、JEPXスポット価格平均が低水準で推移したことから、売上高は前年同期比で減少いたしました。

低圧については、昨年4月より市場連動型プランのみとなり、当社が価格変動リスクを負担することはなくなったものの、全体の契約口数が微減いたしました。

しかしながら、一般家庭に比べて電力消費量が大きい低圧法人の契約口数は増加いたしました。今後は低圧の獲得もさらに強化していく予定です。



売り上げ減少の主要因は、JEPX平均価格の下落に伴う販売単価の低下によるもの

2024年3月期の販売電力量が前年度比▲3.7%の微減だったのに対し、売上は▲25.2%と大幅に減少した。これは2024年3月期のJEPX平均単価が2023年3月期に比べ▲47.2%と大きく低下したことで、市場連動型プランの販売単価が低下したことの影響によるところが大きい



※出典：一般社団法人日本卸電力取引所 取引市場データ

当社が提供する電力プランは市場連動型プランのみではありません。

こちらの資料の右側をご覧くださいと分かるように、前期1年間に比べて、今期1年間のJEPXスポット価格平均は約47%下落しました。

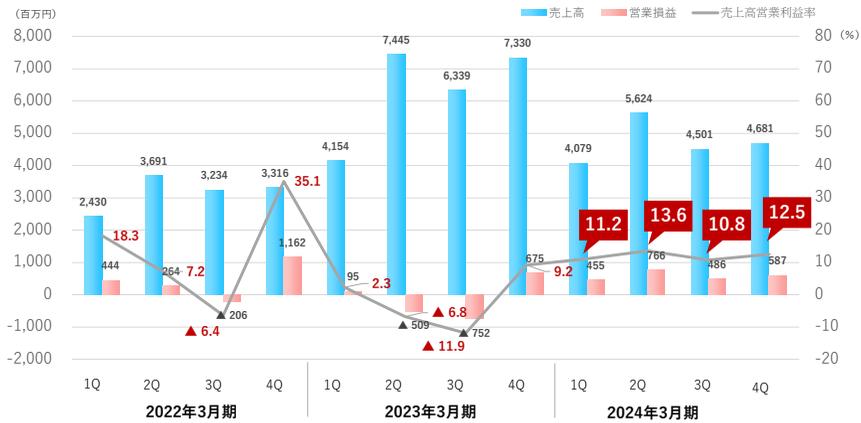
しかし当社では、市場連動型プランだけでなく、固定単価プランなどの複数の商品プランを組み合わせることで、2024年3月期の売上高の減少が25.2%にとどまり、一定の利益を確保することができました。

エネルギー事業（電力小売事業）



電力先物の利用停止で損益認識の期ずれが発生しないこと、市場連動型プランの比率増加により利益を安定確保できていることなどから、**売上高営業利益率は年間を通し10%超**となった

四半期毎の売上・営業利益推移



こちらはエネルギー事業における、四半期ごとの売上高と営業利益の推移となります。

前期や前々期は、電力先物取引による評価損益が、会計上の損益に大きく影響を与えておりましたが、今期は電力先物取引を活用せず、市場連動型プランの比率を増加したことで、安定的に利益を確保できるようになりました。



続いてレジリエンス事業です。

当社オリジナルブランドの家庭用蓄電システム「remixbattery」や小型産業用蓄電池の販売代理店の開拓や販売活動を積極的に推進し、蓄電池販売台数は順調に伸長しております。

現状は、家庭用蓄電池の販売割合が多いものの、今後は小型産業用蓄電池の販売も強化し、販路を拡大してまいります。

レジリエンス事業（補助金支援コンサルティング）



これまでの知識・ノウハウを生かした補助金申請支援を通して企業の再エネ、省エネをサポート

■ 補助金支援実績

累計採択件数：**705**件（平成25年度補正予算～現在）

※令和5年度実績 採択件数：**100**件（2024年3月31日時点における実績）

■ 主な支援実績補助金

- ・経産省 省エネルギー投資促進支援事業
- ・経産省 石油ガス災害バルク等の導入事業費補助金
- ・環境省 民間建築物等における省CO₂改修支援事業
- ・環境省 工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業
- ・環境省 レジリエンス強化型ZEB実証事業
- ・環境省 ストレージバリエティの達成に向けた太陽光発電設備等の価格低減促進事業
- ・環境省 地域における太陽光発電の新たな設置場所活用事業（営農地事業）
- ・環境省 コールドチェーンを支える冷凍冷蔵機器の脱フロン・脱炭素化推進事業
- ・環境省 再エネ×電動車の同時導入による脱炭素型カーシェア・防災拠点化促進事業
- ・総務省 分散型エネルギーインフラプロジェクト
- ・国交省 物流脱炭素化促進事業
- ・東京都 省エネ型換気・空調設備導入支援事業 等

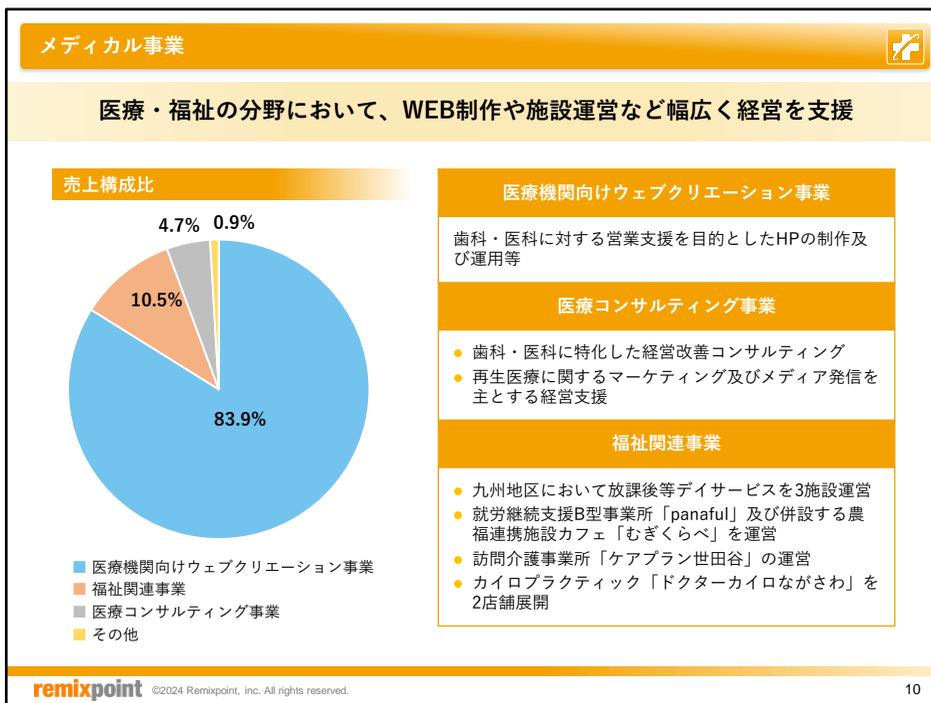
■ 登録等

- ・エネマネ事業者（令和4年度補正予算登録）
- ・ZEBプランナー（ZEB30P-00019-C）
- ・SHIFT事業支援機関



レジリエンス事業部の各種補助金申請ノウハウも確実に進化を遂げています。

引き続き、省エネを中心とした各種補助金申請においては一定の知見を保ちながら、これまで培った補助金のノウハウと蓄電池事業のシナジーを最大限活用し、今後も販路拡大につとめ、収益拡大を目指してまいります。



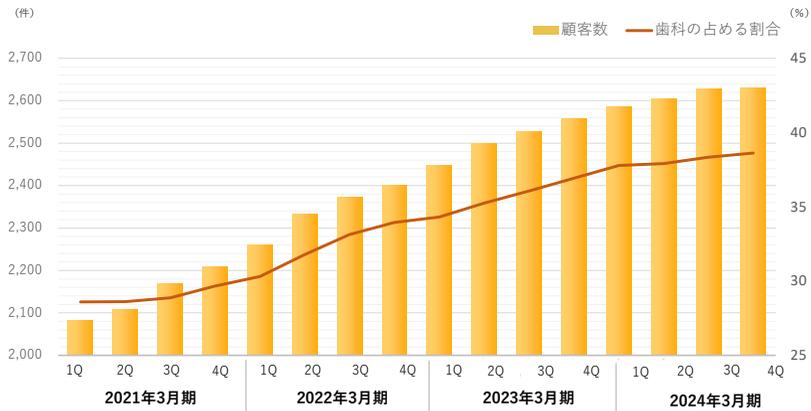
ゼロメディカルは、歯科や医科向けのウェブサイトの企画、制作、運用などを行う「医療機関向けウェブクリエーション事業」、歯科・医科の経営に関する「医療コンサルティング業」、放課後等デイサービスや就労支援B型事業所の運営を行う「福祉関連事業」を柱に、「健康」や「福祉」を中心とする社会問題解決に向けた、事業を推進しております。

ゼロメディカルの売上構成は、医療機関向けウェブクリエーション事業が83.9%を占めています。



WEB制作及び広告運用、マーケティングソフトウェアの導入を通じ、
 歯科・医科の営業活動を支援。顧客数は歯科領域を中心に順調に増加

顧客数推移



ゼロメディカルの医療機関向けウェブクリエーション事業においては、
 歯科領域の顧客が全体の約4割を占めており、その割合は年々増加傾向に
 あります。歯科領域の顧客数が増加したことも影響し、2024年3月期末の
 顧客数は約2,600件となりました。

今後、ゼロメディカルは、医療のトータルコンサルティング企業とし
 て、更なる領域の拡大、顧客獲得を目指します。

以上で、リミックスポイント 2024年3月期決算の説明とさせていただきます。

ご視聴ありがとうございました。

※質疑応答については、特に質問はなく、説明会は終了した。